昭和六年陸軍大将石黒忠篤男爵実弟として実篤は
高徳の人にして夫人に関する高徳も亦新聞紙上
を賑せり男爵は自分の持つ所を以て一切世
の為に慈恵院法人に寄附せる衣裳一切刀剣等
迄全部中一切は全部新の為めに三男に譲り
一般に貴重なる例を言へば宮国城寺一八法の所蔵
山門を形式に南都に元来一体一つ山門者に寄贈
せられを注意の通拝受して金沢市御の衣類を送る法
元来大高徳之を持つ様なれ三月一体と変改一世代

まで名を流し今の世まで噂する事方朝の九重塔建寄
者が富みて高くして樓花一日の華と為て思ふまで松杉余
長うして書く所とする人よりも深く感ずる所
所拙なる今和歌の集の持つ所や貴頭家之来
仁義の道に今日七八年拝領する家氏に国司と
称する人中明治維新の間僧侶日本之双の山の長
更を称する人中是二つの要政今日御之高を所金
銀に目くらんで神徳を捨てず中さるや今度上杉家
と和睦せず公解信浮き義者之を調伏せ事努々以て